



先哲
和歌
鑑定
後覽
上

千 3
3562
1



子重

多子 2223
卷 1-2

子 3562
卷 1

定方便覽

二書房梓

新書

いふふふふふふふふふふふ

てたつうふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

子

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

鑑定便覧目次

△イ上

伊成 十二

犬井貞怒 十九

今井似閑 卅一

△イ下

縮垣棟隆 三

市岡猛彦 九

石塚竜九 七

和泉真因 十二

石津亮澄 十一

石原正明 廿四

板垣民部 九

石野廣道 四十一

伊勢安壽 卅四

縮津祇空 五十五

△ハ上

灰屋銘益 卅

伯永堂梅風 廿七

伴 蒿蹊 卅四

羽倉信郷 卅九

羽倉惟徳 卅九

林 諸鳥 四十五

△ハ下

稿本縮彦 四

服部中庸 五

服部敏夏 五

伴 信友 九

羽倉信美 十六

羽倉信俊 十六

稿本経亮 廿四

林 廣海 廿五

塙保巳 卅九

長谷川菅雄 卅二

速水房常 卅七 馬場信武 四十二
馬場信意 四十一 法橋兼載 四十七

△二上

嵯川親當 八 嵯川親元 八
嵯川親孝 八

△亦上

北条氏政 五 北条氏康 五

細川滿元 五 細川幽齋 五

細川三科 五

△亦下

穗井思友 十四 本間海清 卅一

牡丹花宵拍 五

△卜上

頭阿法師 二 十市遠忠 五

東六郎 六 東行氏 六

東時常 六 東氏村 六

東六郎 七 東胤綱 七

東氏數 七 東常縁 七

東素珊 七 柘井一室 卅

年有 四十五

△卜下

殿村安守 七 富田恭州 廿一

伴部安宗 廿八 土肥経平 四十一

△亦上

千村仲雄

△リ上

梁盛 五 利元坊 廿

△リ上

岡本宣就 十七 岡西惟中 廿八

小野好純 廿八 小沢芦菴 卅二

小野古道 卅三

△亦下

小笹敏 七 小川萍流 十五

小野勝義 十五 小野重賢 十六

尾崎雅嘉 廿四 小山田与清 卅一

岡田盤齋 卅九

△リ上

和田字翁 廿

△リ下

渡辺重名 六

△力上

鴨長明 一

加茂基久 十二

勝田長清 十二

隱家茂睡 六

加藤盤斎 十

河井立枚 廿五

香川宣阿 廿五

香川異新 廿五

香川異平 廿五

香川黃中 廿六

川上立牧 廿六

加藤景範 卅

海北若冲 卅六

荷田春滿 卅

荷田在滿 卅八

荷田御風 卅九

荷田民子 卅九

加茂真淵 卅

加藤枝直 卅二

加藤千陰 卅二

榊取貞彦 卅四

薰梅子 卅七

△力下

加藤磯足 六

河崎重恭 十四

香川景樹 卅

元岡芳香 卅五

加茂季鷹 卅七

垣本雪臣 卅八

河本公輔 卅八

元岡寛光 卅九

金谷貞詩 卅二

河村秀穎 卅三

河村秀根 卅三

河村殷根 卅三

河村益根 卅三

△日下

餘野子 卅七

△日下

横井千秋 五

四方田長淳 十六

吉田元長 十七

吉川惟足 卅四

△夕上

武田晴信 十三

伊達政宗 十五

谷口元澄 卅四

橘 常樹 卅三

高橋秀倉 卅五

橘 御園 卅五

平 録信 卅八

△夕下

田中道九 三

田中大秀 九

田山敬儀 十五

滝原末雨 十七

高橋残夢 卅一

平 務廉 卅五

高井八穂 卅九

高屋友助 卅二

橘 守部 卅三

道且居士 卅九

谷 重遠 卅六

谷村光義 卅七

多田義俊 卅七

高田未白 卅九

玉木葦齋 卅九

立野蓬生菴 卅十

高屋近文 卅十

橘 守国 卅十

上田秋成 廿三 植松宗南 廿八
植松宗清 廿八 上田光秋 廿八

△上 井上通子 卅

△下 井沢長秀 卅

△上 野村尚房 共 野田忠甫 卅六

△上 太田道灌 九 大村可全 廿二

△下 大館高門 七 大矢重門 八

大橋長廣 三 大石千引 廿六

大堀正輔 廿七 大塚蒼梧 卅五

△上 日下部高豊 十五

△下 黒川道祐 卅五

△上 山岡元隣 廿七 紅子 卅七

△下 山崎篤利 十五 山本清樹 廿

山本由之 廿一 山田清安 廿二

山本清溪 卅 山岡明阿弥 卅四

山本吉利 卅八 山本源藏 卅八

山崎宗鑑 卅五

△上 松永貞徳 十九 松井幸隆 廿八

△下 前波黙軒 十五 松岡 廿二

正木十幹 廿六 益谷未寿 卅二

松崎義克 卅八 松下見林 卅十

真野安通 卅五

△上 兼好法師 二 慶運律師 三
竟孝法印 三 竟憲 四
竟忠 四 竟惠 四
竟譽 四 竟智 五
桂久 十一 竟泊 十三
△上

舟木居士 六 藤原美樹 四

△フ下 藤井高尚 八 物外尼 十七

浮木 十七 富士谷成章 八

△コ上 藤原義恭 五 藤井貞幹 四十五

木瀬三之 十 福田美楯 十九

△コ下 小西春村 十一 近藤光輔 十三

△工上 巨勢利和 共 小寺清之 卅一

栄弘 五 榎並隆理 下九

△テ上 微書記 十 有賀長収 廿四

△ア上 有賀長伯 廿三 安藤素軒 卅七

安藤為章 卅七 青木実行 卅五

荒木田久老 四十六 青柳種信 十三

△ア下 栗田玉滿 三 青木行敬 廿九

秋山光彪 廿九 青木永弘 卅六

青木永章 卅二 跡部光海 卅八

天野信景 卅六 荒木田経雅 卅三

△サ上 佐川田昌俊 十七 櫻井元茂 廿四

佐々木景欽 廿七 佐江子 卅七

斜与子 卅七 西道智 卅四

△サ下 三減 十七 櫻井基佐 四九

茶屋野宗長 四七 里村元紹 五十二

里村元巴 五十 里村昌休 五十二

里村元の 五十二 里村昌琢 五十二

里村昌叱 五十二 里村玄仲 五十三

里村玄仍 五十三 紀俊長 六

△キ上 紀行文 六

目録

六

木下長嘯子 六	北村湖春 七	北村正立 八	玉蘭女 卅二	△キ下	城戸千楯 八	清原雄風 廿三	岸本弓法 卅	行助法印 卅二	△ユ上	百合子 卅一	△三上	三好長慶 九	官部義心 廿四	源維寧 卅五	三島自寛 卅六	△三下	三井高隆 四	宮城春意 卅	△シ上	北村季吟 廿一	北村湖元 廿二	祇園権子 卅一	木下幸文 廿一	木村定良 卅	衣川長秋 卅二	三好冬康 十三	官部義直 廿四	源弘 卅五	路子 卅七	源躬弦 廿七
---------	--------	--------	--------	-----	--------	---------	--------	---------	-----	--------	-----	--------	---------	--------	---------	-----	--------	--------	-----	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	-------	-------	--------

淨弁律師 三	寿峯 十一	十竹叟 九	下河辺長流 卅五	茂子 卅七	△シ下	白尾国柱 六	新庄道雄 十	出納職忠 卅四	種玉菴宗祇 卅六	昌程 卅三	溝材 卅三	△工上	惠南 十九	△七上	平間長雅 廿三	菱田縫子 卅十	△七下	平田篤胤 十	△毛上	寂惠 五	周嗣 十二	似雲 廿七	倭文子 卅六	釈義門 十二	清水濱臣 廿五	常静翁 卅一	心教僧都 卅一	昌倪 卅三	樋口宗武 卅六	一柳千古 廿六
--------	-------	-------	----------	-------	-----	--------	--------	---------	----------	-------	-------	-----	-------	-----	---------	---------	-----	--------	-----	------	-------	-------	--------	--------	---------	--------	---------	-------	---------	---------

毛利元就 十三 望月長好 十三

△七下

本居宣長 一 本居大平 二

本居春庭 二 本居建正 十一

本居清島 十一 本居永平 十一

本居美乃子 十一

△七上

盛孝 四 正廣 十

正般 十一 正敬 十一

△七下

千家清主 四 碩庵 十七

関目安良 世 瀬名貞雄 四五

専順法橋 廿

△ス下

須賀直見 三 鈴木朗 六

鈴木真実 十三 鈴木春蔭 十三

菅沼斐雄 九

古今異蹟 鑑定便覽卷上

地下和哥之部

鴨長明

名長明洛北下鴨ノ初官ナリ南大

夫ト称ス和哥ヲ好ミ殊ニ

糸竹ヲ愛シテ尤モ長セリ

カツテ和哥所ノ寄人ニ補

セラレ後故アツテ薙髮シ

テ還胤ト号シ洛北大原ノ

御ニ退隠ス時ニ

上皇翁ヲ召シテ和哥所ニ

補セラレノ御沙汰アリケ

レトモ哥ヲ奉ツテ其志ヲ

アラハシ辞シテ不肯後又

建厂中藤雅徑ノ為ニ催サ

レテ鎌倉ニ赴キシハノ、

幕府ニ謁シ竈遇甚厚シ時

ニ法花堂ノ柱ニ哥一首ヲ

題シテ感懐ヲ示シ明年洛

南日野山ニ方丈室ヲ作ル

後横十尺高廿七尺ニ不足

釣鎖自由ニシテ東西南北

意ニ任セテコレヲ移ス

上皇コ、ニ御幸ノコトモ
アリシトソ

子胤

筑紫宗久

平吉氏筑紫ノ
人ナリ哥ヲ好
ンテ尤モヨクス風ニ吟シ
月ヲ弄シテ遂ニ世ヲ厭ヒ
テ僧トナリ九州ヲ去テ晉
ク海内ヲ漫遊ス曾テ丹州
大江山ノ下ニ寓止ス觀心
中又丹州ヲ出テ東奥松嶋
ニ至リ自ラ遊行スルトコ
ロノ紀行一卷ヲ著ス藤魚
良基公深ク愛シテ跋ヲ加
ヘタマフ翁ノ哥新拾遺ニ
見エ并ヒニ下三代ノ撰集
ニ載セタリ

兼好法師

ト部氏兼顯

佐兼好ト云藏人ニ位シ後
五位下ニ叙ス 後宇多帝
北面ノ士ナリ 帝崩シ拾
フ後發心シテ薙髮シ名ヲ
以テ法号トス唐山ニ登リ
テ修学シ後隱捷ス才氣秀
致尤モ和文ニ妙ナリ徒然
草ヲ著ハシテ大ニ其卓見
ヲ示ス後伊州ノ刺史ノ招
キニ仍テ屢々至リ終ニ其
国田井莊ニ終ル時ニ觀応
元年二月十五日ナリ
上皇深ク惜ニ洽ヒ勅使ヲ
賜ヒテ其墓所ノ封祿ヲ賜
フ今猶アリト

兼好

兼好

頓阿法師

初ノ名ハ泰尋
小野宮大納言

能実マ六世ノ孫ナリ以ニ
シテ世ヲ遁レ唐山ニ登リ
テ修学ス後高野山ニ入尤
哥ヲ善シ脚子左為世ハノ
門ニ入テ深ク究ム時ニ師
兼好浄弁慶運ノ輩ヲシテ
世ニ時ノ四天王ト称ス後
七十余歳ニシテ愚問賢注
ヲ著ス是ヨリ先洛東双林
寺ニ一草庵ヲ結ヒ西行師
ノ旧ヲ慕フ時ニ応安五年
二月十三日歿ス年八十四

頓阿 五
坊河 五
秋 鳥

浄辨律師

法印ニ叙ス
権律師タリ

少ニシテ和哥ヲ好ミ脚子
左為世ハノ門ニ入テ頻リ
ニ修学シ其奥旨ヲ究ム時
ニ称スル四天王ノ一人也

笑 如
如 如

慶運律師

法印ニ叙ス権
律師タリ浄弁

律師ノ男ナリ幼ヨリシテ
哥ヲ好ミ父ノ意ヲ継テ猶
出藍ノ誉レアリ

蓬 如

了譽

関東佐竹黨ノ人ノ子ナリ其姓氏ヲ詳カニセズ蘿髮シテ浄土宗ノ僧トナル和哥ヲ好シテ頓阿法師ニ就テ事ヲ問フ名ヲ聖岡ト云フ応永中ニ歿ス

亮孝法印

常光院ト号ス権大僧都ニ任ス頓阿法師ノ曾孫タリ曾テ藤定家ノ夢中ニ来リ洽ヒテ古今集ノ傳受アリト見テ其次年勅シテ和哥所ノ別當ニ補セララル仍テ世ニ和哥所ノ法印ト稱ス時ニ享徳四年七月寂骨体榮雅流ヲヨクス

亮

亮

亮憲

権少僧都法印ニ任ス後亮孝法印ノ養子ト成テ養父ノ志ヲ嗣テ和哥ヲヨクシ時ニ名高シ

亮下憲

亮

亮忠

亮憲法印ノ子ナリ権少僧都ニ任ス哥ヲヨクシテ家風ヲ守ル古今集傳受ノ人ナリ

亮忠

亮慧

亮孝法印ノ門ニ入テ頓リニ和哥

ヲ修シ古今集ノ傳受ニイ
タル

所

堯譽

堯孝法印ノ門ニ
入テ修學シ終ニ
真旨ヲ得テ時ニ稱譽ス

為

盛孝

堯譽ノ門ニ入テ
和哥ヲ修シ終ニ
古今集傳受ヲ得タリ

威孝為

堯智

堯憲ノ門ニ入テ
頓リニ和哥ヲ修
學シ終ニ精乃ニ至ル永正
中ノ人ナリ時ニ鳴ル

智

梁盛

盛孝ノ門ニ入テ
修學シ終ニ妙所
ヲ得ルノ人ナリ時ニ稱譽
ス享祿中ノ人ナリ

將

寂惠

安部氏ニシテ俗
松範光俊薙髮シ

テ順教房ト号ス和哥ヲ好
三テ修学シ終ニ妙ヲ得

寔忠

十市遠忠

十市氏兵部少
輔ニ任ス大和

ノ人ナリ詠哥頗ル精巧ニ
至リ時ニ称誉ス天文十四
年三月十六日卒ス年四十
九ナリ

遠忠

榮弘

十市遠忠ノ舍弟
ナリ洛北高旌山
密藏院ニ任ス和哥ヲ好三

テ頗ル善ス弘治中ノ人ナ
リ

紀俊長

紀伊名草ノ官
ノ初官タリ後

五佐ニ叙ス紀長谷雄ノ後
裔ナリ居ヲ好ニテ家ニ教
牛卷ヲ藏シ意ノ欲ルニ從
ツテコレヲ読後退隱シテ
宗傑ト改ム其居宅ノ庭前
ニ梅樹數百株竹數千幹ヲ
栽テ自ラ梅隱マ夕竹隱ト
号和哥ヲ好ニテ堪能ニ至
リ至徳永享ノ勅撰ニ載セ
ラル

紀行文

俊長マノ男ナ
リ家ヲ嗣テ後

三位ニ叙シ初官タリ和哥
ヲ好ニテ頻リニ修学シ終
ニ堪能ニ至リ新鏡古今集
ニ載ラル又三首ノ和哥ヲ

詠テ奉リ御劔ヲ賜フマタ
父ノ志ヲ嗣テ藏昏蓋ヲク
イヨク研究ス

東六郎

徹行法名素暹ト
号ス和哥ヲヨク
シテ中院為家マノ門ニシ
テコトニ称セラル

東行氏

通称六郎名行氏
法名素道素暹ノ
子ナリ和哥ヲ好ミテ家風
ヲ学ンテヨクス

東時常

法名素阿素道ノ
男ナリ家風ヲ傳
ヘテ和哥ヲ善ス

東氏村

下野守後五位下
ニ叙任ス法名詔
阿時常ノ子ナリ和哥ヲヨ
クス

氣

東六郎

師氏法名素果氏
村ノ子ナリ和哥
ヲ好ンテ家風ヲ守ル

東胤綱

式部少輔ニ任ス
名胤綱又益之ト
改ム法名素明和哥ヲヨク
シテ家風ヲ守ル古今集ヲ
修ス

東氏數

通称六郎名氏數
法名素吹胤綱ノ
子ナリ家風ヲ傳ヘテ和哥
ヲヨクス

東常縁

左近大夫從五位
下野守ニ叙任
ス胤綱ノ子ナリ和哥ヲ修
学シ堪能ニ至ル終ニ一家
ヲナス頼リニ古今集ヲ唱
ヘテ其傳受ヲ関ク門ニ入
テコレヲ受ントスル者少
ク哥林ニ遊フ者以傳ヲ称
スル事コ、ニ始ルト云後
祝髮シテ素傳ト号ス

上
七
彦

氣

用
魚

東素珊

野州常縁ノ男ナ
リ父ノ教ヲ受テ
和哥ヲ修シ家風ヲ唱ヘテ
時ニ称誉ス

素珊
魚

素珊
魚

初

蜷川親當

官道氏ナリ後
法名ヲ智徳ト
号ス世々伊勢守ニ任ス武
術ニ長シ和哥ヲ好ンテ大
ニ修シ終ニ精巧ニ至ル世
ニ集外哥仙ト称スルモノ
ノ一ナリ家集筑波集アリ

初

福

蛭川親元

通称新右衛門
宮道氏薙髮シ

テ公寿ト号ス和哥ヲ修シ
テヨクス

蛭

蛭川親孝

親元ノ子ナリ
新右衛門尉ト

云茂五位下大和守ニ叙任
ス足利義晴公ニ仕フ或云
藏人頭貞増ノ三男ナリト
和哥ヲ好ンテ善ス

蛭川親孝

蛭川親孝

太田道灌

名持資源氏伊
豆守後備中守

入道シテ道灌ト号ス又静
勝軒ト号ス居所ノ号ヲ慕
景樓ト云上杉家ノ左臣ニ
シテ智勇忠烈ノ士ナリ和
哥ヲヨクシテ精敏ヲ得ル
実ニ文武兼備ノ良士ト云
ヘシ事実世ノ知ル所ナリ
文明中鎌倉ニ於テ戦死ス
家集慕景集アリ

蛭

水

津守國冬

撰津任吉ノ社務ナリ從三位

ニ叙ス和哥ヲ好シテ修學シ精妙ヲ得尤家風ヲ守リテ殊ニ堪能ナリ集外ノ哥仙ト稱ス

物物

三好長慶

ヨクス

筑前守ニ任ス和哥ヲ好シテ

慶

徹書記

名正徹字清岩俗姓紀氏洛東東福

寺流下ノ僧トナリ和哥ヲ研究シテ堪能ニ至リ時ニ稱譽スマタ唇體後因融院流ヨリ出テ一家ヲナシ妙所ニ至ル世ニ徹書記流ト稱ス世人定家々ノ再生ナリト云居ヨ栗東庵ノ裏ニ構ヘテ松月ト号ス後故アツテ洛外山科ノ地ニ移シ其居所ヲ又指月ト号ス長祿三年五月二日寂ス年七十九

徹

壽峯 壽峯 壽峯

正廣

徹昏記ノ門人ニシテ世ニ日比ノ

正廣ト称ス又日頃ト云集外哥仙ノ一人ニシテ尤モ詠哥ヲヨクス

氣

正般

徹昏記ノ門人ニシテ殊ニ昏ヲヨ

クス又和哥ヲ好ンテ尤モ善ス明恋中ニ歿ス

氣

壽峯

徹昏記ノ門人ニシテ和哥ヲ修学

シ又昏ヲ研究シテヨクス尤モ時ニ称ス兼珎ノ子ナリ

壽峯

壽峯

正敬
徹昏記ノ門人ニシテ和哥ヲヨクシ又昏ヲ善ス姓氏不詳シカシテ世ニ称譽ス能其師風ヲ得タリト云ヘシ

正敬

桂久
徹昏記ノ門人ニシテ和哥ヲ修学シ大ニ進ンテ時ニ称セラシマタ昏ヲ研磨シテ頗ルヨクス

桂久

伊成
亮孝法印ノ門ニ入テ頻リニ修学シ終ニ古今集ノ傳ヲ受ルシカシテ大イニ称セララルニ至ル

伊成

亮泊
亮孝法印ノ門ニ入テ頻リニ研究スコトニ古今三木三鳥ノ傳ヲ得テ時ニ唱フ

亮泊

周嗣
禅家ノ僧ニシテ和哥ヲ好ミ頗ルヨクシ時ニ称譽ス兼好法師ト時ヲ等クシテ新千載集ノ作者タリ

周嗣

賀茂基久 加茂皇大神宮ノ称宜タリ和哥ヲ好ンテ預リニ修学シ頗ル善シ時ニ称誉ス

勝田長清 遠江ノ人ナリ藤原氏越前守

ニ任ス和哥ヲ好ンテ冷泉為相々ノ門ニ入テ修学ス後薙髮シテ法名ヲ蓮昭ト号ス

毛利元就 中国ノ大守大膳大夫後ニ從

三位宰相ニ叙任ス武事ノ余和哥ヲ好ンテ修コトニ精乃ニ至ル其武ノ如キハ世ニ知ル所ナリ則世ニ集外哥仙ト称ス三十六人ノ一人ナリ

武田晴信 甲斐ノ国司漁氏大膳大夫後

入道シテ大僧正ニ任ス法号信玄喜山ト云武事ニ鍊達シ兵法一家ヲナシタル事等ハ普ク知ル所ナリ和哥ヲ研究シテ大ニ善ス

晴信

三好冬康

攝津荒木城主
三好守タリ実

休ト号ス和哥ヲ好ンテ修
シコトニ善ス又連哥ニ名
譽ナリ兄長慶戦死ノ時一
ノ名勺ヲ咄テ世ニ称譽セ
ラル集外三十六哥仙ノ一
人タリ

冬康

北條氏政

相州ノ大守相
摸守徒五位上

二叙任ス又左京大夫ニ任
ス武事ノ余和哥ヲ好ンテ
頗ルヨクス

北條氏政

北条氏康

相摸ノ大守左
京大夫ニ任ス

氏政ノ子ナリ和哥ヲ好ン
テ頗ル善ス

氏康

齋

細川満元

道悦ト号ス法
名常觀和奇ヲ
好ニテ尤モ善ス

志記

細川幽齋

源氏名藤孝正
四位下兵部大
輔ニ叙任ス後
薙髮シテ出
齋ニテ法印ニ
任ス和哥ヲ
好ニテ頼リニ
修学シ終ニ
堪能ニ至ル東
野州ノ流ヲ
慕ヒ古今集ノ
傳受ヲ許サ
ル後後ニ位ニ
叙入時ニ慶

長十五八月廿日 本七十七

長生三少齋

藤孝甫

志記

藤孝甫

細川三齋

玄旨法印ノ男
ナリ武術絶倫
世ノ知ル所ナリ
後三位右
中将ニ叙任ス
名忠與後入
道ニテ三齋ト号
又曰宗立

三斗

忠貞物

伊達正宗

陸奥ノ大守後
後三佐中納言

ニ叙任ス武事ノ余和哥ヲ
好ニテ木下長嘯子ヲ友ト
シ顯ル善ス文武兩達ノ將
タリ且連哥ヲ善シテ其意
ノ欲スルニ從カヒ吟誦ス
ル可妙タリ



伊達

木下長嘯子

名勝俊後
佐下左近權

少將ニ叙任ス播州大守タ
リ後京師ニ來タリ洛東吳
山ニ閑居シ薙髮シテ長嘯
子ト号シ又天哉翁東山夢
翁等數号アリ性凡流ヲ愛
シ和哥ヲ好シテ頓リニ修
学シ堪能ニ至ル又和文精
巧タリ當時イマタ唇籍之
シク然ルニ翁藏居多シ藤
堀寓翁シハノ、翁ニ唇ヲ
借テ読シト石川丈山等ト
交友ヨシ後洛西小塩山ニ
閑居ス時ニ慶安元年六月
十五日卒年七十三

上
六

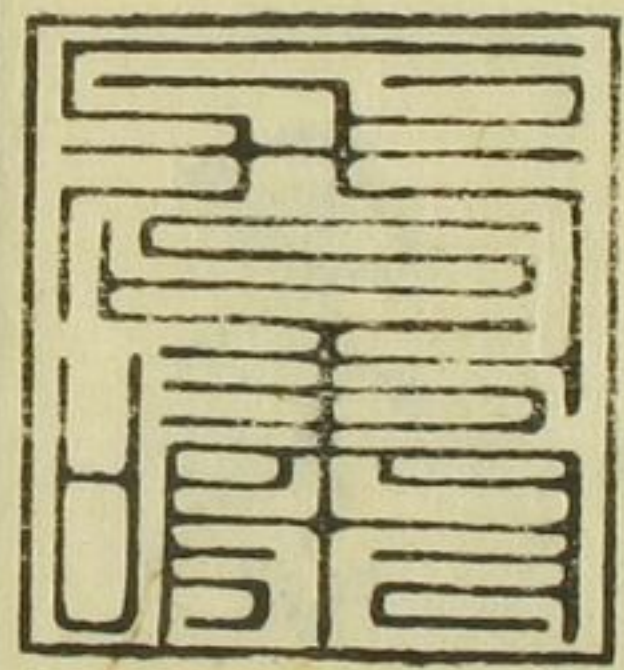
氏



昌俊

昌俊

昌俊



昌俊

佐川田昌俊

通称喜六山
城渡二任ス

黙々翁又壺斎 卧輪子等ノ
敷号アリ 武術ヲヨクシ和
哥ヲ好ンテ 修シ大イニ精
妙ニ至ル 貴族コレヲ称シ
テ名性風流ヲ愛スル事甚
シク時ニ称譽シ世ニ鳴俊
隠道シテ城南薪木村ニ住
ス寛永二十年八月三日歿
ス年六十五葬 酬恩庵中

昌俊



上
五

産
三
呂
後
立

岡本宣就

江州彦根ノ文
学武術ヲヨク

ス通称半助和哥ヲ好ンテ
善ス又骨体天皇流ヲヨク
セリ世ニ称誉セララルノ
名家ナリ且茶道ニモ名アリ
明ノ三年三月十一日歿
ス年八十四初名正武号喜
庵又無明道人

庵

舟木居士

姓ハ山本名春
正初長嘯子ノ

門ニ入テ和哥ヲ修学シ後
一家ヲナスニ至ル寛永天
和ノ間後ヒ学フノ人甚多
シ或云猫金ヲヨクシテ一
家ヲトシ世頗ル称誉シ為
ニ法稿ニ叙ス嘗テ二十一
代集類勺ヲ著ス又伊藤仁
斎ト交友最ヨシト

法橋

舟木

舟子

隱家茂睡

戸田氏初名ハ八兵衛後渡辺茂右衛門恭光ト云梨本菴又寒露軒ト号ス戸田与右衛門忠勝カ次男ナリ世ニ隱家ノ茂睡ト称スルハ其秀逸ノ詠哥ニモトムトモナキカクレカニシテト云アル故ニ人シカ呼リ宝永三年四月十四日歿ス年七十三江戸浅草新寺町白雲山金竜寺ニ墓碑アリ又信州相木々大竜寺ノ過去帳ニ馮雲院殿打山茂睡大居士トアリテ又辞世ノ哥等アリ

茂睡茂睡

惠南

京師ノ人風早実積マノ門ニ入テ和哥ヲ修シテ善ス空華庵ト号ス寛保中ノ人ナリ

空華
忠子

十竹叟

大徳寺沢庵禅師ノ別号ナリ鳥丸光廣卿ノ門ニ入テ哥ヲヨクス傳別ニアリ

松永貞徳

初名ハ勝熊後貞徳ト号ス道遥軒長頭丸延陀丸明心居士花咲翁等皆別号ナリ哥ヲ好ミテ九条藤公ニ学フ後マ夕細川出斎侯ニ從ノ晩年俳諧ヲ以テ世ニ主張ス其居初ハ洛三條街ニ住シ後松魚ノ北東洞院ノ東ニ卜居ス時ニ花咲翁ト号ス

ス坎地花開社アル故ナリ
兼応二年十一月十五日歿
ス年八十三洛西上鳥羽村
実相寺ニ葬ル彼地若ノ丸
屋ト称スルアリ翁ノ旧跡
ナリ

延徳丸西

安

西

犬井貞恕

一囊軒ト号
ス貞徳翁ノ

跡ヲ嗣テ家風ヲ守リ哥并
ヒニ俳諧ヲ修ス世ニ花咲
三世ノ老師ト称ス

木瀬三之

名随宜通称作
矢衛貞徳翁ト

友トシヨクシテ交遊シ疑
ヒヲ問フ全クノ門人ニハ
アラシト

三之

三之

和田宗翁

名以悦字宗翁
一華堂ト号ス

京師ノ人典故ヲ貞徳翁ニ
受マタ儒ヲ藤惺翁ニ学
フ嗟哉唐沢ニ隠捷シ哥ヲ
詠テ同ヲ遣ル延宝中歿ス
年七十二家弟宗允漢字ニ
シ其傳既ニ儒家ノ部ニ見
エタリ

加藤盤齋

名ハ等空冬木翁ト号ス又盤

斎ト云撰津国ノ人ナリ京師ニ出テ修学ス又能諧ヲモヨクシテ号ヲ灘洲ト云或云始洛西大魚山ニ隠ル後去テ市中ニ住ス一時勢州ノ龜山侯ニ遊事スト延宝甲寅八月十一日尾張熱田客舎ニ歿ス

盤齋

灰屋紹益

佐野氏初名ハ重孝通称三郎

兵衛ト云哥ヲ好シテ初ノ本阿弥光悦ト交リ飛鳥井雅章々ニ從ヒ学フ後貞翁ニ從フト諸伎ニ成リテ凡流ノ好士ナリ曾テ寛永中

名妓吉野ヲ購ヒ得テ妻トスト後難髮シテ紹益ト号シ法橋ヲ梓ス元禄四年十一月歿ス年八十二ナリ又茶道ヲ専ラ好シテ頗ル名アリ

重孝

紹益

北村季吟

通称初久助呂庵又拾穂軒ト

号ス込江北村郷ノ人幼ヨリシテ哥ヲ好シ貞徳翁ニ從ヒ修シ苦学辛アリテ終ニ一家ノ学ヲナス平安玉津島ノ初祝トナル後其哥学ニ精シキヲ以テ台命ヲ奉シテ江戸ニ移リ哥学所ニ進ニ再昌院法印ニ任セラレ封祿五百石ヲ

治フコ、ニ湖月亭ト号ス
其学凡益精密ニシテ世ノ
為ニ益アルノ書数部ヲ著
ハス時ニ宝永二年六月十
五日年八十八歳ニシテ卒
ス子孫家風ヲ守リ綿々ト
シテ益昌ナリ墓所ハ江戸
池ノ端茅町正慶院ナリ

李吟


吟吟


北村湖春 李吟法印ノ男
ナリ松果院ト
号ス父ノ業ヲ嗣テ哥学所
ニ補シ法印ニ叙ス元禄十
年正月十五日卒ス年五十

吟吟



北村湖元 湖春法印ノ男
ナリ父ノ業ヲ
受テ和哥所夕リ再昌院法
印ニ叙ス寛延二年五月四
日卒ス下谷日宗寺ニ葬ム

北村正立 李吟法印ノ次
男ナリ父翁東
行シテ後モ京師ニ止マリ
テ新玉津嶋ニ住シ哥学ヲ
修シテ後ヲ延テ教示ス元
禄十五年八月廿一日歿ス
江戸瑞林寺ニ葬ム

北

二七

山岡元隣 京師ノ人ナリ
李吟法印ニ後
ヒテ詠哥ヲ修シ尤モヨク
ス

元隣

大村可全 京師ノ人ナリ
和哥ヲ好シテ
李吟法印ノ門ニ入テ修シ
大ニ究ム

のま

望月長好 名謙友長好ト
号ス後長孝ト
改ム信濃國ノ人ナリ貞徳
前ニ後ヒ研究シテ終一家

ヲナス晩年洛西廣沢ノ辺
リニト居シ室ヲ小扶野屋
ト云世ニ廣沢長好ト称ス
時ニ延宝九年三月十五日
歿ス年六十三家集アリ世
ニ行十八ル

長孝

平間長雅 平間氏風觀窓
ト号ス京師ニ
住シ長好ノ門ニ入テ専ラ
哥學ヲ修シ頼リニ進ンテ
時ニ鳴後ヒ學フノ後頗多
シ宝永七年七月廿七日歿
年七十五

長雅

有賀長伯

以敬齋ト号ス
京師ノ人ナリ

長雅ノ門ニ入テ学ヒ苦学
年アリテ大イニ進ニ終ニ
一家風ヲナス專ラ名所ヲ
探リ既ニ秋ノ寐覺ヲ著ハ
シテ世ニ益アリ時ニ後ヒ
学フノ徒甚多ク家学ヲ傳
ヘテ子孫益唱フ元文二年
六月二日歿年七十七

長雅

長伯



有賀長収

長伯ノ孫ナリ
家風ヲ守リテ

詠哥ヲ修ム浪花ニ住ス門
ニ入テ学フ者多ク初ノ名
ハ長因ト云文政元年五月
七日歿ス年六十九

長収

谷口元淡

字大雅大和郡
山ノ人ナリ京

師ニ来リテ哥学ヲ修シテ
善ス著唇アリ

櫻井元茂 大和郡山ノ人
十リ詠哥ヲ好
三垂テ漢字ニ五精シカリ
シト服部南郭ト交遊頗ル
美リシト享保ノ季年歿ス

宮部義正

名義正上野高
崎ノ老臣タリ
和哥ヲ好シテ頻リニ修シ
終ニ一家ヲナス著述ヲ好
ンテ頗ル多シ

義正

義正

宮部義直

義正ノ男ナリ
父ノ志ヲ得テ
和哥ヲ好シテヨクシ時ニ
称スマタ義直ノ母義正ノ

ノ妻万子又和哥ヲ修シテ
ヨクス

河井玄牧

浪花ノ人ナリ
長伯ノ門人ニ
シテ哥ヲヨクス家集アリ
桂山集ト云男玄壽ト号ス
又哥ヲヨクス

香川宣阿

名竟真後宣阿
ト号ス又梅月
堂ト云周防岩国ノ老臣故
アツテ退身シ京師ニ來リ
剃髮シテ清水谷実業ハノ
門ニ入テ和哥ヲ研究シ終
ニ一家ヲナス居ヲ洛ノ一
条ニトス故ニ世ニ一條ノ
今西行ト称ス家風ヲ傳ヘ
テ猶昌ナリ享保二十年九
月廿二日歿ス洛東園名寺
ニ葬ル時ニ辞世ノ詠哥ア
リ

宣阿

宣阿

香川景新

宣阿法師ノ男
ナリ家風ヲ守

ル梅仙堂ト号ス元文四年
十一月廿三日歿ス

景新

香川景平

景新ノ子ナリ
梅月堂ノ家風

ヲ守リテ和奇ヲ修シテ徒
ヲ教示ス寛政元年四月八
日歿ス年六十八ナリ

景平

香川黄中

景平ノ子ナリ
徳大寺家ノ侍

ニシテ初ノ名ハ景柄後六
位上陸奥介タリ後黄中ト
号ス梅月堂ノ家風ヲ守リ
テ又一家ノ妙ヲ得タリ時
ニ称セラレ文政四年十一
月九日年七十七ニシテ歿
ス唯心院浄阿居士ト号ス
辞世ノ句哥アリ

平景

黄中 柄

馬

京柄

黄本

野村尚房

備前岡山ノ人ナリ通称播六

一枝軒ト号ス京師ニ出テ宣阿法師ニ從ヒ哥ヲ学ヒテヨクス宝永中歿ス

川上立牧

梅月堂ノ風ヲ慕ヒ門ニ入テ

修シ終ニ一家ノ風ヲナス

立牧

中堀倍庵

梅月堂ノ門ニ入テ研究ニ充

モヨクセリ

伯水堂梅風

東郡ノ人ナリ京師ニ來

ツテ梅月堂ノ門ニ入テ頻リニ修シ終ニ其旨ヲ得テ大ニ唱フ

梅風

佐々木景欽

京師ノ人ナリ黄中ノ養

子トナリテ香川ヲ吟フ後又離別シテ本姓ニ復セリ通称雅樂ト云天保二年歿ス

景欽

似雲法師

初名ハ如雲春兩亭ト号ス藝

洲廣嶋ノ人ナリ阿波路川寺ノ閑山タリ延宝中大和

葛城山ノ草庵ニ煉修シテ
 門ヲ閉ルコト一其師哥ヲ
 好ニ武者小路実陸公ノ門
 ニ入テ学ヒ尤モ善ク深ク
 西行法師ノ跡ヲ慕ヒ其終
 焉ノ地ヲ索ム終ニ夢中ニ
 観音大士ノ灵アツテ其地
 和泉和川ナルコトヲ知彼
 地ニ往テ草庵ヲ結ヒ心ヲ
 澄シテ歌哥ヲ修ス時輩今
 西行ト称ス後又四方ニ雲
 旂ス実ニ一奇人ナリ終ニ
 和泉舘尾ノ豪富北村氏ニ
 シテ寂ス年八十六

似雲云
 為
 似雲云
 母

心云

岡西惟中 一時軒ト号ス
 浪花ノ人ナリ
 和哥ヲ好シテ善ク又俳諧
 ヲヨクセリト

一由軒

松井幸隆 京師ノ人松井
 氏通称帯刀和
 哥ヲ中院通茂公ノ門ニ入
 テ学ヒ後自ラ一家ノ風ヲ
 ナシテ時ニ鳴後ヒ学フノ
 士頗ル多シ

幸澄

僧西順 京師ノ人ナリ和
哥ヲ好ンテ善ス
如是庵ト号ス

素門西順

如是庵

隱士素門西順

小野好純 播ノ三木郡
人ニシテ

京師ニ出テ哥学ヲ唱フ考
木小野好古四十二代ノ裔
ナリト云

小野好純

梨木祐之 下鴨ノ神主ナ
リ正三位ニ叙
ス詠哥ヲヨクシ弟テ大イ

二國史ヲ修ム神道ヲ山崎
垂加ニ学フトイヘ正位一
家風ヲナス享保八年正月
廿九日卒ス善受院殿ト謚
ス後三位永祐縣主ノ男ナ
リ

祐之

梨木祐為 祐之ノ孫ナ
リ家職ヲ嗣テ

正四位下上総介ニ任叙ス
冷泉為村々ノ門ニ入テ和
哥ヲ学ヒ精力絶倫ニシテ
既ニ其詠出ル所若キヨリ
去ニ至ルマテト万首ニ及
フト曾テ一日モ廢スルコ
トナシ又画ヲモ善シテマ
、自画賛ノ物ヲ享和元
年六月十七日卒ス追号ヲ
漁光院殿トイヘリ洛ノ西
表寺ニ葬ル

法為

後
為

僧涌蓮

伊勢ノ人ナリ壯年江戸某寺ノ住持トナリシカ高僧傳ヲ讀テ慨歎シ寺ヲ遁レ去京師ニ來ツテ暖峨ニ隱捷シ冷泉家ニ就テ和哥ヲ修シ後思フ故アリテ獨立シ心ノ故スルニ從ヒ生涯念仏シテ敢テ一物モ蓄フ所ナシ唯意ニ任セテ歌吟スルニ其妙又人ノ及バザルハ風致アリテ大イニ稱譽ス安永三年五月廿八日寂ス

存少虫

涌蓮

涌蓮

涌蓮

梅井一室

京師ノ人ナリ武者小路家ノ門ニ入テ和哥ヲ修シ終ニ一家ヲナシテ善ス芦庵蒿蹊ノ輩ト交リヨシト

一室

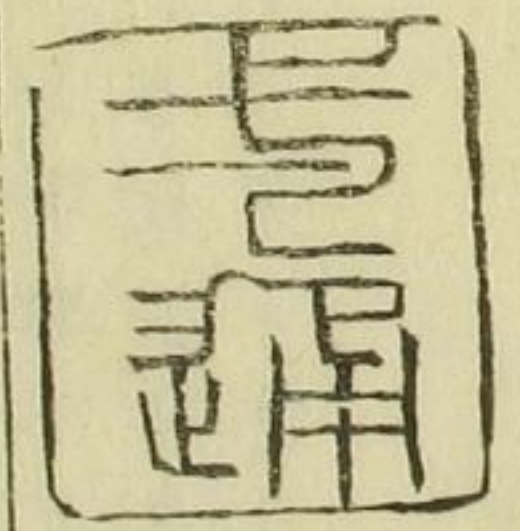
加藤景範 浪花ノ人ナリ
 俗稱小川屋喜
 太郎有賀長伯ト交リテ又
 一家ヲナス専ラ哥学ヲ修
 シテ著述數部アリ寛政季
 年歿ス

景範

井上通子

讃岐丸亀ノ士
 井上某ノ女ナ
 リ如ヨリ昏ヲ読ヲ好ンテ
 詩文ヲ善ス殊ニ和哥ヲ修
 学シ大イニ善シテ世ニ鳴
 ル年十八ノ時君公ノ母公
 ト俱ニ江戸ニ往其記行テ
 リ世ニ稱譽ス後三田某ニ
 嫁シ傳右衛門義勝ヲ生ム
 実ニ女丈夫ト云ヘシ一時
 細子ノ盤珪禪師ト儒仏ノ
 論弁ヲナス時ニ哥アリ人
 感賞ス家集アリ世ニ行ハ
 ル天和中ノ人ナリ

通女



祇園梶子

平安祇園下林
 ノ茶店ノ女子
 リ如ヨリ哥ヲ好ンテ奇才
 アリ心ノ欲スルニ及ヒテ
 花月ニ吟誦ス好事ノ徒頓
 リニ稱シテ贈答ヲ求ム故
 ニ其名世ニ響子ト尤モ秀
 詠多ク夜震ノ哥ナト人口
 ニアリテ殊ニ妙ナリ家集
 アリ世ニ行ハル

通女

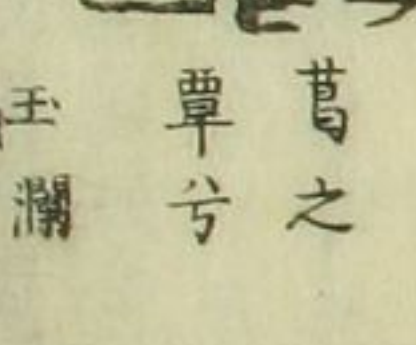
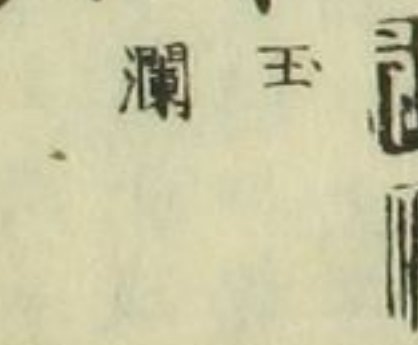
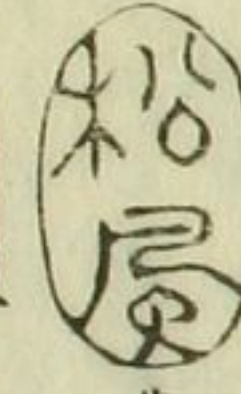
百合子

梶子ノ養女ナリ
 母ノ茶店ヲ嗣テ
 出ツ又和哥ヲ好ンテ善ス
 殊ニ花顔輝媚タルノ美人
 ナリ故ニ風流ノ好子ナト
 頻リニ哥文章等ヲ倚テ意
 ニ送カハシメントストイ
 ヘ所曾テ不皆爰ニ江戸徳
 山景ト相シタミ三赤心ヲ
 尽シテ某ヲ助ク然ルニ某
 本宗ヲ嗣ノ故アツテ江戸
 ニ歸リ百合ヲ携ヘントス
 百合其不従ノ理ヲ解テ不
 往又一女アリコレヲ誘ン
 トス又不肯故ニ二人ヲ残
 シテ往百合子跡ニアツテ
 欣ミトメ負採ヲ守リ一女
 ヲ育フテ天年ヲ終フ

百合子
 百合子

玉蘭女

百合子ノ生ム所
 ナリ父ハ江戸ノ
 徳山某ナリ父ハ本宗ヲ嗣
 ント江戸ニ歸ルノ後母ニ
 養ハレテ成長シ後母ノ意
 ニヨツテ池大雅ノ妻トナ
 リ夫ト俱ニ再ヲナシ又冷
 泉家ノ門ニ入テ和哥ヲ修
 シテヨクス名ヲ町子ト云
 其才三世ニ及フモ又奇ナ
 ラスヤ



小澤芦菴

通称帯刀名ハ
玄仲尾張竹腰

家ノ臣タリ初メ劔法ヲ修
セシトテ諸国ヲ游歴ナシ
後故アツテ志ヲ改メ詠哥
ヲ以テ天下ニ冠タラント
ス初浪花ニ住シ後京師ニ
移リテ冷泉為村ノ門ニ
入テ修シ破門ニアヒテ後
一家ノ風ヲナシテ時ニ起
絶スコ、ニ岡崎村ニト居
シ觀荷堂ト号ス又洛西太
祭ニ萬居セシ時ナト某ノ
官脚駕ヲ曲サセ給ヒシ事
モ屢クアリシト當時平安
和哥四天王ノ随一ナリト
称ス実ニ詠哥ハ秀技シテ
新古今体ヲ自在ニナスノ
一大家ナリ享和元年七月
十一日歿ス年七十九白川
心性寺ニ葬ムル

道法

若

若尾

鷗

若尾

収

僧澄月

醉夢菴又翠雲軒
ト号ス洛京岡寄

村ニ住ス本ハ備後福山ノ
人ナリ出テ京師ニ来リ唐
山ニ登リテ仏学ヲ修シ後
一宗ヲ衰敗ヲ歎シテ密カ
ニ哥風流ニ道レ生准ヲ安

ンセントス爰ニ武者小路
家ノ門ニ入テ研究シ終ニ
精巧ニ至リ平安四天王ノ
一老ト称セラル哥体実ニ
老練ノ妙アリ寛政十年丑
月二日歿ス年八十五

澄月
澄月
澄月

僧慈延

大愚ト号ス又吐
屑菴ト云洛東岡
寄村ニ住ス冷泉為村口ノ
門ニ入テ歌哥ヲ修シ其奥
ヲ究ム平安四天王ノ一人
ナリ文化二年歿ス

慈延
慈延
慈延

伴蒿蹊

近江八幡ノ人
ナリ京師ニ出
初メ有賀長伯ニ從ヒ學ヒ
後武者小路実岳々ノ門ニ
入テ研究シ終ニ自ラ一家
ヲナス文章又一夙ノ妙ア
リト称ス洛大仏ノ辺リニ
住シ閑田序ト号ス六如上
人ト交友善シテ頗ル漢學
ニモ精シタリシ為人篤厚
温順ナリ妙法院ノ官殊
ニ寵ヲ給フ平安四天王ノ
一人ナリ文化三年七月廿

五百年七十四ニシテ歿ス
著ス所崎人傳世ニ行ハル

長流

采田庵葛高

葛高

下河辺長流

名具平通称
六長流ト号ス

本姓ハ小寄氏大和守田ノ
人ナリ浪花ニ隱遁ニ古学
ヲ研究シ古体ノ哥ヲ詠シ
源ク万葉集ヲ慕フ契冲師
ト方外ノ友タリ世ニ古学
ノ興ル歟翁ニ権輿レリト
イフヘシ性清介ニシテ人
ニ諂ハス起卧意ニ任セテ
高貴ノ名クトイヘ斥曾テ
不応兀テ意ノ欲スルニ順
フ矣ニ清採ノ隱君子ナリ
其墨痕ノ如キモ又世ニ甚
少ナリ偶マアルモノハ多
ク疑ハシクシテ取カタクシ
コレ又隱逸ノ士ナルカ故
ナリ時ニ貞享三年六月三
日歿ス年六十三其家集歿
後ニ契冲師コレヲアツメ
テ晩花集トテ世ニ行ハル

下河

僧契沖

諱空心俗姓ハ下河氏父ヲ元

全ト云撰津呂ケ崎ノ人ナリ幼ヨリ群童ニ秀技シテ三才唇ヲナシ五歳唇ヲ読十三ニシテ薙髮シ高野山ニ登リ快賢律師ニ從ヒ密乘ヲ修學シ終ニ兩部大阿闍梨ニ至ル晉子夕冥山ニ登リテ苦鍊年アリ後浪花ノ生玉曼茶羅院ニ住持ス後又高津ニ隱住シ四珠菴ト号スコ、ニ 皇朝ノ古昔ヲ慕ロ大イニ万葉集ヲ唱フ其他国史律令格式淡獵セサルナシ実ニ古學ヲ中興セル十歳ノ一人ト云ヘシ詠哥又不凡ノ妙アリ天下ノ學士雷同シテ學益昌ナリ著書頗多シ既ニ水戸西山公ノ命ニ応シテ代述記ヲ著スナト世ノ知ル所ナリ元祿十四年正月廿五日歳ス年六十二

東の契沖

契沖

契沖

忠

今井似閑

見牛ト号ス京師ノ人六波羅

ノ東ニ隱居シ詠哥古風ヲ好ニ契沖師ノ門ニ入テ學ヒ終ニ一家ヲナス彼後遺シテ藏唇數部悉ク加茂三寺文庫ニ収ム皆契沖師ノ

技本ナリ

似閑

海北若冲

海北氏浪花ノ人ナリ岑拍ト

号ス契冲師ニ就テ和哥国学ヲ鍊終シ大イニ勸ンテ時ニ名譽ナリ

野田忠甫

初ノ名ハ善兵衛長流ニ後ヒ

長流歿後契冲師ニ就テ古学詠哥ヲ修シ頻リニ進ム又有職ノ学ニ精シ

利元坊

浪花ノ人ナリ契冲師ノ門ニ

入テ詠哥ヲヨクス隱逸ノ人ナレハ其墨痕世ニ傳ハル少ナクシテコレヲ得ス

樋口宗武

通称主水京師ノ人ナリ国学詠哥ヲ好シ契冲師ノ風ヲ慕フ殊ニ有職ノ学ニ精シ

安藤朴翁

名実為通称新五郎京師ニ住

ス原丹波ノ人ニ和哥ヲ好テ善ス後竹園親王ニ奉仕ス後六位上右京之進タリ進ンテ後五位下右京亮累テ内通頭後五位上ニ移ル五十二ニメ辞仕テ祝髮シ朴翁ト号ス元禄十五年卒年七十六但以下安藤ノ三人ヲコトニ出ス八年山契冲師ノ所以タル故ヲ以テナリ

安藤素軒

名實為美朴翁ノ長子ニ父ノ家

ヲ嗣テ竹園親王ニ奉仕シ後五位下右兵衛尉タリ頗ル皇朝ノ古典ニ通シ且和哥ヲ善ス水府彰考館ニ

素軒

安藤為明 初ノ名ハ為章
通称新助年山

ト号ス水府公ニ給仕シテ
兄素軒ト俣ニ彰考館ノ惣
裁タリ又公命ニ依テ浪花
ニ来リ製冲師ノ門ニ入テ
万葉集ヲ問フ和文ヲ善ス
実ニ和漢通達ノ人ナリ

為章

荷田春満 通称羽倉翁官
洛南稻荷ノ祠

官従三位信詮宿祢ノ子ナ
リ家ヲ弟信名ニ督シノテ
自ラハ大イニ国学ヲ唱ヘ
復古ヲ任トス嘗テ享保中
江戸ニ在テ台命ヲ奉シ
テ古俗ヲ校正ス又京師ニ
国学校ヲ造左セント欲シ
上表シテコレヲ請フ既ニ
許容ヲ得ントシテ病ニ罹
リ事果サス惜ムヘシ時ニ
元文元年七月二日六十九
ニシテ歿ス稻荷山ノ南阿
里山ニ葬ル当時世ノ古学
家十二ニシテ九翁ノ紓ニア
ラサルナシ実ニ古学ノ中
祖ト云ヘシ

東方

東滿

東丸

荷田在滿

東滿翁ノ甥ニ
通稱東之進字

持之仁良奇ト号ス国学ヲ
修シ専ラ有職ノ学ヲ研究
シ終ニ起絶ノ譽レアリ中
年田安公ニ仕フ後故アツ
テ退身シ徒ヲ延テ教示ス
門ニ遊フノ士頗ル多シ宝
元八年八月八日歿ス年四
十六

羽衣草鞋

菅在滿

荷田御風

初ノ名ハ冬滿
字小玄通稱東

藏在九ノ嗣子ナリ父ト俱
ニ江戸ニ在テ古学ヲ修シ
時ニ鳴ル性清潔ニシテ貞
操アリ敢テ仕官ヲ望マス
諸侯屢々召セ凡不応豊前
岡原其志氣ヲ愛シテ容ト
シテ物ヲ給フ天明四年八
月十六日歿ス年五十七

羽衣草鞋

荷田蒼生子

在滿ノ妹ナ
リ兄ニ從ヒ

テ江戸ニ出哥学ヲ修シテ
大イニ進ニ終ニ精巧ニ至
リ其門ニ入テ学フノ女子
甚多シ諸侯ノ夫人女公子
預リニコレヲ召ス又貞潔
ニシテ女丈夫タリ其事実
墓碑ニ委カナリ天明六年

二月二日歿ス年六十六江
戸浅草金竜寺ニ葬ル

茶之生

子

羽倉信郷

荷田宿祢洛南
稻荷ノ祠官ニ

東九翁ノ男信満ノ子ニシ
テ本宗ヲ嗣ク拱津守後四
位上ニ叙任ス片菴蒿蹊ノ
輩ト交リテ哥ヲ善ス



羽倉惟徳

荷田氏字子馨
御風ノ嗣子ニ

父ノ小字ヲ受テ東之進ト
云本姓ハ藤井氏ナリ有職
ノ学ヲ修シ又詠哥ヲ善ス
文政十年二月歿ス年六十
三十リ

菱田縫子

江戸ノ人ナリ
荷田氏子ニ從

ヒテ修学シ詠哥尤モ善ス
後述ヲ述テ教示ス寛政中
歿ス

賀茂真淵

名ハ真淵通称
岡部衛士縣居

ト号ス遠江濱松加茂社ノ
祠官定信縣主ノ子ナリ若
ニシテ梅谷某ノ養子トナ
ル由テ京師ニ来リ荷田東
満翁ノ門ニ入テ苦学勦強
ス延宝三年江戸ニ出テ益
研究シ終ニ精妙ニ至リ其
学天下ニ及フ時ニ其門ニ
俊才英傑ノ学士輻湊シテ
業ヲ受ル田安公召テ俸
祿若干ヲ給ヒ龍遇甚厚ニ

宝ノ中年仕ヲ致シテ益古
 語ノ難義ヲ解其学愈昌也
 古学ノ世ニ普ク成シハ実
 ニ荷田翁ノ門ニ埃翁ノ出
 シニヨレリ詠哥ノ風ヲ古
 昔ニ復セシハ一ニ翁ノカ
 ニヨツテナリ故ニ海内ノ
 国風家其風下ニ立サル火
 シ翁ノ詠哥ノ如キハ中古
 以来前後人ナク超凡絶唱
 ト云ヘシ時ニ明和六年十
 月卅日歿ス年七十三江戸
 呂川東海寺中火林院ニ葬
 ル後ノ名ヲ玄珠院真淵義
 龍居士ト云

是乃法王
 真淵
 圓
 流

真淵
 志
 乃

村田春道

江戸ノ人豪商
タリ縣居真淵

翁ノ東武ニ出シヨリ我居
 宅ニ招シテ自ラヲ姉ノ子
 春々春海ノ兄弟ヲ学ハシ
 ム篤厚ノ学者ナリ尤モ哥
 文章ヲ大イニヨクス明和
 六年七月廿一日歿ス深川
 本誓寺ニ葬ムル

春道

村田春郷

春道ノ男ナリ
 加茂翁ノ教ヲ
 受テ哥学ヲ修シ大イニ進
 △曾テ富貴ヲ浮雲ノ如ク
 シテ家ヲ弟ニ督シメ自ラ
 ハ道隠シテ専ラ古学ヲ任
 トス又蹴鞠ヲ善ス然レ厄
 コレニ滯セス父母ニ仕ヘ
 テ至孝ナリ時ニ明和五年
 九月十八日年三十二シテ
 歿ス惜イ哉家集アリ刊行
 セリ

村田春海

春道ノ子春々
 ノ弟ナリ幼ヨ
 リ国学哥文ヲ好ニ加茂翁
 ニ学フニ才気秀抜精乃ニ
 至ル又漢学ヲ服部仲英又
 京師ニ来リテ皆川淇園ニ
 モ就テ学フ又鶴士寧等ニ
 モ事ヲ向リ詩文ヲモ善ス
 後一家ヲナスニ至ツテ門
 ニ入テ教ヲ受ルノ士頗ル
 多ク其名大イニ振フ当時
 翁ト十彦ノ二翁ノ名江戸

ニ於童子トイヘ厄知サル
 ハナシト文化八年二月十
 三日歿ス年六十六翁通称
 平四郎字士観截錦斎又栗
 後翁ト号ス

春海

村田春海

春海



春海

村田多勢子

春海ノ女ナ
 リ翁ノ業ヲ
 受テ哥ヲ善シ
 度ヲ延テ教
 示ス

子

加藤枝直 橘氏ニシテ始

枝直一政△通称又兵衛本
伊勢ノ人ナリ江戸ニ出テ
大府ノ騎士ニ召サル時ニ
加茂翁ノ学ヲ信シ交リテ
国学哥学ヲ学ンテヨクス
既ニ後ヒ学フノ徒甚多シ
天明五年八月十日歿ス年
九十四本莊回向院ニ葬ル

加藤枝直

加藤千蔭 枝直ノ男ナリ
通称又左衛門

某園又芳宜園又耳梨山人
ト号ス一名常世丸切ヨリ
加茂翁ニ授ヒテ古学詠哥
ヲ研究シ終ニ精妙ニ至ル
其名甚甚高ク又筆道超越

ノ妙アリ世ニ千蔭流ト称
ス時ニ権門貴族ヨリ花街
ノ婦女ニ至マテ翁ノ哥文
唇体ヲ学ヒ或ハ争フテコ
レヲ求ム盛大近世ニ獨歩
ス実ニ縣門ノ巨擘哥学ノ
一大家ナリ文化五年九月
二日歿ス年七十四ナリ号
逸齋窩江翁等アリ又畵ヲ
モナレテ夙致アリ

千蔭

千蔭

千蔭



千蔭

橘

小野古道

江戸ノ人ナリ
通称長谷川

益医ヲ以テ業トス壯年眼
病ヲ疾ヒ終ニ瞽者トナル
ニ至ツテ鐵術ヲ修ス加茂
翁ノ江戸ニ出ルヲ待テ弟
一ニ其門ニ入テ学ヒ能師
ノ教ヲ守ル篤厚ノ学者也
明和中歿ス

橘常楙

橘氏土佐ノ人
江戸ニ出テ加

茂翁ヲ慕ヒ古学哥ヲ研究
ス性無欲ニレテ事ニ拘ラ
ス酒ヲ好ミテ多飲ナレ
飲サル如ク学文強識ナレ
凡知サル如シ其然レ凡然
ラサル如キ物六アリ故ニ
加茂翁コレヲ無六翁ト号

ス著唇若于アリ盗ノ爲ニ
取去レテナシ時ニ宝丁十
二年十一月十九日大イニ
酒ヲ飲醉卧シテ歿ス其ニ
縣門ノ一奇人ナリ

常樹

藤原美楙

通称加藤大助
江戸ノ人ナリ

静舎ト号ス加茂翁ノ門人
中実ニ翁ノ詠哥ノ妙所ヲ
得タル人ハ咲翁ナリト云
ヘシ中年浪花ニ来ルノ時
京技ノ好士教ヲ受ルモノ
多シ後又京師ニ来ルノ途
中ニシテ病ニ不却終ニ安
永六年六月十日洛ニ条ニ
歿ス三條ノ三宝寺ニ葬ル
家集アリ門人秋成刊行ス

常樹

香

楫取魚彦

下徳香取ノ人ナリ通称茂左衛門本姓稻生氏茅生庵ト号ス加茂翁ヲ慕ヒ江戸ニ出濱早ノ翁カ居宅ノ近隣ニ移住シ頼リニ勉強ス殊ニ上古ノ調ヲ好シテ尤モ善ス又困ヲモ寒葉齋ニ学シテ能シ世大イニ称譽セリ天明二年三月歿ス年六十也

夏

白雲

日下部高豊

江戸ノ人トリ加茂翁ヲ師トス長哥ヲ殊ニ善セリ詠哥諸君ニ多ク奉タリ

源維寧

江戸ノ人ナリ縣居門ニシテ古学詠哥ヲ修シ大イニ進ム安永中歿ス

源

源弘

江戸ノ人ナリ縣居門名譽ノ人詠哥ヲヨクス

源

高橋秀倉 又保良上モ
名ノ人長哥古体ヲ尤モヨ
クセリ

年有 江戸ノ人姓氏
詳ナラス縣門
ニシテ詠哥ヲ善ス曾テ倭
文字ト俱ニ上総伊香保ノ
温泉ニ至ル其記行中秀哥
甚多シ

青木美行 江戸ニ住ス縣
居門名譽ノ人
長哥文章ヲ善ス

橘御園 江戸ノ人ナリ
加茂翁ノ高弟
ナリ長哥ニ長セリ

林諸鳥 江戸ノ人通称
利助加茂翁ノ
門ニシテ専ラ詠哥ヲ研究
シ善セリ且長哥又妙ナリ
寛政六年八月十九日歿ス

下谷藩随院ニ奉ル

三嶋自寛 江戸ノ人初ノ
名ハ景雄後雅
髮シテ自寛ト号ス縣居門
中有名ノ人ナリ

三嶋自寛

荒木田久老 伊勢内宮ノ神
主ナリ從四位

上タリ五十槻園ト号ス通
称宇治主税加茂翁ノ字ヲ
慕ヒ門ニ入テ業ヲ受終ニ
精乃ニ至ル後一家ノ見識
ヲ立テ学大イニ進ニ其名
大ニ振フ国史律令祝詞等
廣ク研究シ殊万葉集ニ精
カラ尽ス同国ニアツテ本
居翁ト肩ヲ比ヘテ名目ナ
リ性豪放ニシテ其才又都

絶タリ門ニ入テ業ヲ受ル
モノ願ルヲ多シ時ニ文化元
年九月五十九ニシテ卒ス
著居甚多シ世ニ流布ス

久松文子

久松文子

倭文子

江戸弓屋吉右衛門ノ女ナリ

幼キヨリ世ノ童女ニ秀抜シテ才氣超越ナリ父母コレヲ加茂翁ノ門ニ入シメテ学ハシム既ニ年十八ノ時伊加保温泉ノ紀行アリ其才カ見ルヘシ惜イ哉室ノ二年七月年二十ニシテ歿ス終ルニ臨ニテ哥アリ人大イニ感賞ス

餘野子

江戸ノ人紀ノ女夫人ニ仕フ縣居

門三才女ノ一ニシテ秀才無比ナリ殊ニ文詞ニ於テハ其妙ヲ得タリ世大イニ感賞ス

餘野子

茂子

江戸ノ人ナリ其秀哥ニ依テ又筑

波子トモ云リ進藤正幹カ養女ニシテ土岐頼意カ妻ナリ加茂翁ノ門ニ入テ修学ス其諒哥ノ口調天曆ノ女房ノ調アリト世ニ称ス三才女ノ一人ナリ

紅子

江戸ノ人加茂翁門ニシテ長哥文

詞ニ妙ナリ倭文子餘野子茂子共四女子皆家集アリ世ニ流布ス

佐江子 縣居門ニシテ
專ラ短哥ヲ修
シテ善セリ

路子 縣居門ノ一才女
ナリ頼リニ古調
ヲ修シテ長哥ヲ專ラトシ
テ善セリ

斜與子 縣居門ニシテオ
女ノ名高シ專ラ
短哥ヲ修ス諸侯ノ女夫人
召テ事ヲ問タマフ

美樹ノ母 加藤美樹カ母
ニシテ俱ニ縣
居門ニ入テ詠哥ヲ善ス

薰梅子 縣居門ニシテ
殊ニ文詞ヲ修
シテ善シ才女ノ名高シ

世々梅子

平緣信 六友堂ト号ス
又不知麻呂ト
云フ初荷田在満ニ迄ヒテ
有職古学ヲ研究シ後又縣
居門ニ入テ疑ヒヲ賃セリ

平緣信

平緣

監定便覽卷上畢

增註聯珠詩格 全十冊

綠芋村莊詩鈔 全二冊

梅西舍詩鈔 全二冊

竹原先生ノ詩間暢流麗是ヲ讀テ解ニ易ク是誦シテ熟シ易シ初學ノ者ニ雖一讀便チ了々たり然レ其高韻幽味ニ至テハ是ヲ古人集中ニ加ルレモ多ク耻サル者アリ蓋シ王孟章柳ノ流亞カ

詩語解 全二冊

詩家推敲 全二冊

助辭諺解大成 全三冊

凡文章ヲカクニ助字ヲ用ユルハ何ノ為ノナレハ文章ハ助字ヲ用ヒテ意象ノユク處ヲカ名リ助字ノハタラキニテ其實ノ緩急顔色聲音ノ有サマテ今日ニ見ル如クカキトリ論說ノ條理意象ノ細密ナルヲ毫ラ折キ絲ラ分ツテ詳ラカニコレヲ知ラシムルナリ毛利貞齋先生是ヲ解シテ助語ノ魁本トス

初學文式 全一冊

文章ノ式ヲ悉ク集テ初學ノ便チシム袖珍本ニシテ便利能重宝ノ一冊ナリ

京都三條通堺町 出雲寺松栢堂

